

# 地域と学ぶ ⑧

山形大学地域教育文化学部

小学校に外国語活動が導入され5年が経過しました。しかし、外国語活動の狙いや目標が正しく認識されているかは疑問です。そして授業研究会を参観するたびに、その思いを強くしています。

授業を提供してくださる先生方は、一生懸命に教材分析・教材作りをし、素晴らしい授業実践を見せてくれます。外国語活動が必修化される前の「総合的な学習の時間」で英語活動が行われていた時とは雲泥の差です。皆さんが一様に遜色のない授業を見せてくれます。

## 英語教育学 佐藤 博晴 教授

▽1962年生まれ、秋田県出身。山形大着任は2009年。



佐藤教授の講義として行われた、学生による外国語活動の授業風景  
＝昨年11月、山形市



た微妙に違った(時には大きく異なる)外国語活動の目標の上につくられていることが分かります。

私は山形大に赴任してから、この学校間や教員間で異なる外国語活動に対する共通認識を、山形県内の学

校に少しでも浸透させたいと考えてきました。皆さんが考える小学校外国語活動の目標は何でしょう。中学校や高校の英語の基礎をつくることでしょうか。一端はそうかもしれませんが、相手の立場に

# 目標は思いやりの心育成

立ってものを伝えられる力。他者の良いところを見だし認める受容、思いやりの心を育てることです。大きな声で歌い、男女仲良く外国語活動ができているクラスは、温かで支持的な学級風土に包まれています。

外国語活動は英語を教えるところではありません。というと、英語に苦手意識のある現場の先生方は少し安心されるようです。昨年度は、大小合わせて県内11カ所でこのような話をしてきました。今年もその活動は同じです。

11月1回掲載します